

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

宇和島城や九島を臨む海が一望できる広々とした開放的な環境の中で、地域と共に、人と共に生きる施設、安心して生活していただける施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●玄関には利用者が以前作った牛鬼の頭が展示されており、来訪者を楽しませてくれている。玄関のチャイムは、音量を小さめに調節しておられた。冬期は「こたつがほしい」と利用者からの希望もあり、テレビの前にこたつを置き、周りにソファを配置して足元があたかく過ごせるようにされていた。建物の周囲は、デッキでつながっており、上履きで一回りできるようになっており、どの居室からも出られるようになっている。両ユニットの間は、デッキの広場スペースとなっており、暖かい日には、両ユニットの利用者が出て来られ日向ぼっこをしたり、夏には和霊祭りの花火も見られるようだ。 ●ご自宅に柿を収穫に帰ったり、入居前から利用している美容院の利用を続けられるよう職員が付き添われている。又、行きつけのお菓子屋におやつを買いに行かれたり、お寺、お墓参りの希望に応じてお参りに同行されている。毎月、映画鑑賞に出かける方やピアノ発表会を聞きに行く方もおられる。隣接にゴルフ場があり、来られる会員の方と顔なじみになって、声を掛け合うような関係が作られて来ている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームあかり

(ユニット名)

ほたる

記入者(管理者)

氏 名

渡部 和美

評価完了日

H23年1月14日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットごとに職員全体で自分たちが目指している介護理 念を作り、実践に努めている。 また理念は、職員の目の届く場所に掲示している。	
			(外部評価) 事業所の基本理念は「利用者が家庭的な環境で地域の方と 共に暮らしていく」ことを目指して「共に生きる」と作成されて いる。開設前に職員は「グループホームのサービスの基本」 について研修を行い、ユニットごとにも理念を作成して、より 具体的に取り組めるようにされている。基本理念は、玄関を 入って正面に掲示されており、ユニット理念は、スタッフルー ムに掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 町内で催される夏祭りや運動会等に出掛け、地域の方や保 育園児とも交流することが多い。 運営推進会議にも地域の方に参加いただいている。 “あかりだより”を、職員と利用者が一緒に近所へ配り、日頃 の声かけを大切にしている。	
			(外部評価) 運営推進会議で地域のボランティアの情報を得て、フラダン ス・踊り・美容・花植え・コーラス等、いろいろな地域の方が事 業所を訪れてくれており、特にコーラスを披露してくださる時 には、利用者も一緒に歌う等ともに楽しまれている。近くの小 学校の1年生の生徒が遊びに来てくれたり、保育園の園児 が散歩途中に立ち寄ってくれることもある。又、小学校の運 動会は地区の方も多く参加されており、利用者は地域の方 達との交流の機会になっている。「あかりだより」を近所のお 宅に利用者と一緒に届けて回られた。事業所主催の「感謝 祭」には、芋炊きを作り、地域の方やボランティアでかかわっ てくださっている方・運営推進会議のメンバー等、80名ほど の参加があったようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) ボランティアの方から「贅沢な時間を過ごさせてもらっていま す」と言われている。 小学校・保育園たちと一緒に過ごす機会が多数あり、お互 いの理解を深めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催しており、地域の方や家族、行政、地域包 括支援センターの方、また時には協力医やボランティアの方 の意見をいただき、取り入れている。	
			(外部評価) 2ヶ月に1回、利用者、ご家族、地域の方、地域包括支援セ ンターの担当者の方の参加をいただき、事業所の居間で会 議を開催されている。地域包括支援センターの担当者から は「夜間時の避難訓練の必要性」について話していただい た。又、協力歯科医から「口腔ケアや訪問診療」について教 えていただいたこともある。参加者からは活発に意見をいた だいており、ご家族から「家族会を作って、夏に草引きやガラ ス拭きをしてはどうか」との言葉をいただき、会議がきっかけと なって、8月には「家族会」を発足された。10月には、草引き を家族会と近所の方で行っていただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 広報紙や運営推進会議の報告書は、速やかに市町村担当 者へ届けて近況を伝え、また時に市役所担当者より指示を 仰いでいる。 運営推進会議への参加を協力いただいている。 また事業所は、市のグループホーム連絡会へ参加している。	
			(外部評価) 市に運営推進会議の会議録や事業所たよりを提出して、事 業所のことを知ってもらえるよう取り組まれている。市では「認 知症介護のモデル事業」を行っておられ、「キャラバンメイト」 の研修や「だんだんネット(宇和島市の高齢者地域見守り ネットワーク)」作り等にも協力されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修を受け身体拘束について理解しており、拘束は今のとこ ろない。	
			(外部評価) 事業所で身体拘束の研修を行い、すべての職員が受講され ている。利用者がいすに座る際、体が傾くような場合には、 クッションを使って姿勢が保てるようにして、体がずり落ちな いよう配慮をされている。出かけようとされる方には、職員が 付き添い、デッキや庭を一緒に散歩して戻って来るようにされ ている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			研修を受けて、全員虐待防止については理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			現在、後見人制度を利用されている方がおられ、権利擁護については理解している。また、制度利用が必要となった場合は支援できる連携体制がとれている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解していただけるように心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			要望に対してはできるだけ早く対応し、日々の暮らしや運営に反映させている。また、家族会を発足し意見をお聞きしたり、ご意見箱を設置している。	
			(外部評価)	
			入居の説明時に、管理者は、重要事項説明書に沿ってサービス等の説明をされている。ご家族が事業所に訪れる機会を作るために事業所では、利用料をご家族に持参していただくことにされている。遠方に住むご家族には、毎月、ご本人の様子や変化を記した手紙と「あかり便り」を同封してご本人の様子を知らせておられる。	事業所では、家族会を発足されており、今後さらに、ご家族との関係を深めていけるような取り組みをすすめていかれることが期待される。たとえば、ケアについてともに勉強する機会や一緒に活動するような機会作り等、グループホームや事業所の取り組みをさらに知っていただき、ご家族と方針をともにして利用者の生活を支えていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回のミーティングで職員の意見を聞き、運営に反映させている。また、定期的にリーダー会を開催している。職員がいつでも意見が言いやすい環境ができており、話し合っている。	
			(外部評価)	
			事業所に「委員会」を設置しておられ、職員は、行事・美化・防災・広報・掲示の委員会のいずれかに所属して、責任を持って、他の職員と協力しながら活動をされている。日々、利用者に関して気が付いたことは、その日の勤務者で話し合って決め、申し送るようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			基準配置以上の体制がとられ、職員は各自が勤務評価を行ない提出し、上司は努力を認めている。緊急時に対応ができ、夜勤帯の安心感につながっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			多くの研修に参加する機会があり、報告会で皆で内容の共有を図ることができている。資格を取るよう働きかけていただいている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム協議会の相互研修に参加し、サービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所申し込みの際、施設見学をしてもらっている。面接時に生活歴や要望を聞き、職員で共有している。入所当初は本人が不安にならないよう、できるだけ傍にいて対応している。トイレの場所がわかるよう掲示している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学をしてもらっている。 家族の要望に合わせて、不安が強い時には食事の提供やソファーベッドの提供を行ない、泊まっていただくこともある。 居室の希望にはできるだけ対応している。 入所当初、家族へのこまめな報告に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の要望を聞いて、ケアプランに取り入れて支援している。 必要な方には訪問看護の利用をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や掃除などしていただき、職員が利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を築いている。できることはしていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での行事に参加していただき、関係を築いている。 受診の付き添いや外出など、できる範囲で家族に協力していただいている。 また、面会時にできるだけ家族と会話したり、状況を伝えたりして、来ていただきやすいよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元へ帰って馴染みの人と会ったり、店へ行ったりする支援をしている。行きつけの理容院を利用している。 電話の対応や年賀状、手紙を出すなどの支援で、関係が途切れないようにしている。 (外部評価) ご自宅に柿を収穫に帰ったり、入居前から利用している美容院の利用を続けられるよう職員が付き添われている。又、行きつけのお菓子屋におやつを買いに行かれたり、お寺、お墓参りの希望に応じてお参りに同行されている。毎月、映画鑑賞に出かける方やピアノ発表会を聞きに行く方もおられる。入居前、通っておられたデイサービスから「遊びに来ませんか」と誘っていただいたこともある。又、隣接にゴルフ場があり、来られる会員の方と顔なじみになって、声を掛け合うような関係が作られて来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関われるよう支援している。また関わり難い時には声かけをしたり、傍に寄り添って対応している。 トラブルが起きやすい利用者の方同士の場合は、注意深く見守り、できるだけ問題が起きないように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所しても入院が長引いている方を見舞ったり、家族の要望で治療について相談に乗ったりしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を取り入れ、本人の思いや意向の把握に努めている。また、日々の会話の中で一人ひとりの思いを把握し、担当職員が中心となって支援している。 ご家族にもお伝えしている。 (外部評価) 「24時間生活変化シート」を用いて日々の利用者の様子を記録されている。プランの実行・検討内容・ご家族への連絡等、色分けして分かりやすく具体的に記録されている。習字をされていた方は、誕生会の題字を書いていたいたり、水墨画を描いていたことが分かった利用者に用具を揃え準備されている。	現在、利用者個々の好みや嗜好等についても詳しく情報収集をされている。今後、事業所ではアセスメントについて「大切な項目をチョイス」していくことも検討されていた。利用者個々の暮らし方の希望やご本人の求めていることを探るためのアセスメントを工夫され、その人らしい暮らしが続けられるような介護計画の作成につなげていかれることが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人・家族やケアマネジャーから情報を得るようにしている。 できるだけ会話し、新しい情報はシートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 大まかな1日の流れはあるが、本人の体調やリズムに合わせて支援している。 状態の変化については見逃さないよう細かく記録したり、共有できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			職員全員で検討会を開き、課題の把握とケアのあり方について話し合っている。本人・家族と事前に話し合い、プラン作成をしている。 本人・家族を交えてのプラン作成は、まだ十分ではない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			利用者の思いや意向を大切に計画作成に努めておられ、実現し難いと感じるようなご本人の意向であっても書き留めておられる。ご本人に特別な変化がなければ、モニタリングは3ヶ月に1回行うようになっており、計画の見直しは6ヶ月ごと職員全員で話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			どうしても対応できない家族に対して、正月など自宅へ帰る際の送迎をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアの方に来ていただき踊りを披露してもらい、利用者もその輪の中に入り、楽しんでいる。 神社への初詣、秋祭り等地域に出て、多くの人達と触れ合う機会がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 施設での情報提供をしたり、受診に同行して相談するなど、かかりつけ医との連携は取れている。	
			(外部評価) かかりつけ医は、ご家族と利用者の希望で決められているが「協力医は、月1回往診してくれるから」と、主治医を変更する方もいるようだ。ご家族が受診に付き添われた場合は、ご家族から受診時の報告を受け、事業所の看護師資格を有する職員が同行する場合は、受診結果を看護師がご家族にお知らせするようになっている。薬の調整を行っている場合には、普段の利用者をよく知る職員が同行して、ご本人の様子を詳しく伝えて適切な薬を処方してもらえよう取り組まれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師1名、准看護師2名おり、相談や支持、支援を受けることができる。 看護職員は各ユニットにそれぞれ配属されているが、相互に対応できるようにしており、介護職員は相談しやすくなっている。	
			(外部評価) 入院時には施設での生活状況等の情報提供を行ない、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の注意事項の指導を受けている。 また、入院中はできるだけ面会に行き、ご本人の精神的フォローに当たっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には施設での生活状況等の情報提供を行ない、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の注意事項の指導を受けている。 また、入院中はできるだけ面会に行き、ご本人の精神的フォローに当たっている。	
			(外部評価) 重度化した場合、家族・本人の意向確認をしている。 医療連携における連携連絡体制を整えている。 家族との話し合いを常に行なうよう心がけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合、家族・本人の意向確認をしている。 医療連携における連携連絡体制を整えている。 家族との話し合いを常に行なうよう心がけている。	
			(外部評価) 事業所で医療連携体制を整備され、重度化した場合や終末期のあり方についてご家族に順次説明して、希望を聞いているところであり「ホームで最期まで看てほしい」と希望するご家族もあるようだ。今後、利用者の状態変化等、時をみながら具体的な説明を行っていくことを予定されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は全員、普通救命講習を受講している。緊急時の対応マニュアルを整備している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練(昼夜ともに)を実施し、対応できるよう全職員が理解しているが、地域との協力体制は十分ではない。 保存食の整備を整える予定がある。 (外部評価) 開設時から2回避難訓練を行っておられ、10月には夜間を想定した避難訓練を実施された。実際に火災通報装置も押してみたが「通じて駆けつけてもらうまでに時間がかかる」ということが分かり、敷地内の施設長に、まず知らせるのが先だと実感されたようだ。隣接のゴルフ場にも夜10時まで人がおり、協力が得られるようだ。備蓄については、現在、事業所の「防災委員会」の職員が「何がどの位必要か」ということを検討しているところである。	夜間を想定した避難訓練や地震等の災害を想定した訓練も重ねられ、地域の方の協力体制等も含めて、利用者職員の安心・安全に向けた取り組みをすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりをよく理解し個性を尊重し、違いを把握した上での接し方や、ケアの方法に気をつけている。 自己決定を尊重し、利用者の誇りを傷つけないようにしている。 (外部評価) 事業所便りの写真の掲載は、ご家族の了解を得られた方のみを載せるようにされている。誕生日には本人の好きなものをメインに考えられている。「利用者が嫌がるようなお話はしない」ことに気を付けたり、男性の利用者が多く、居室をノックして返事を待ってからドアを開けるようにされる。女性職員が重い荷物を運んでいるのを見て男性利用者が手伝ってくださることもあり、職員が利用者にお礼を言っておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉かけを工夫することで思いなどを引き出したり、普段の生活の中で自己決定できるよう、些細なことから働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意向を聞きながら、その人のペースで暮らせるよう支援して いるが、入浴時間等、職員の都合で支援していることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 洋服選びの相談に乗ったり、髭剃りの声かけをしている。剃 り残しがある時には、職員が支援している。 定期的に散髪など行なっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好に合わせた献立を取り入れることがある。 利用者と職員と一緒に食事し、ゆったり食事できるよう配慮 している。 食事の準備や片付け、食器拭き等できることをしていただい ている。 (外部評価) 利用者の好みや思い出の献立、季節の献立を大切にしま す。利用者個々の担当職員が利用者の好きなものを聞 き取り、リストアップして、それらをもとに主任が献立を作成さ れている。職員と一緒にごぼうを削ったり、団子を丸めて団 子汁を作っておられる利用者も見られた。食事中「一緒に 作った団子だけど、味はどう?」「〇〇さんの好きなイチゴよ」 等、食事の話題作りをされていた。全員が食事が終わった頃 を見計らい、職員は「ではそろそろ片づけましょうか」と言う と、利用者は、各自で自分のお膳を下げたりテーブルを拭 いたりされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 夏場にはお茶の時間を増やして脱水予防に努めたり、必要 に応じて水分量の把握と尿量の確認をしている。 また、利用者の特徴に合わせて水分や栄養が摂れるよう、食 事内容を検討している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後声かけし、口腔ケアに努めている。 定期的に、協力歯科医師の訪問診療による口腔ケアを受け ている方がいる。 また、口腔ケアの研修を受け、口腔状態の異常の早期発見 に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 夜間紙パンツとなる場合も、日中は普通の下着を着用し、しぐさや動作を見てトイレ誘導の声かけをしている。 排泄の記録により、排泄パターンを把握している。	
			(外部評価) 一人ひとりトイレに行きたくなった時の仕草が分かるようになり、見逃さないように気を付けて誘導されている。トイレは、夜間は場所が分かるように電気を付けておくようにされている。トイレにはシャワーが設置されており、便失禁の時等に使用しておられる。ウッドデッキや畑にいる時、外から入れるようなトイレも設置されていた。トイレと書くより「便所」の方が利用者に分かりやすいことが分かりトイレの扉には「便所」と大きく表示してあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝一番に水や牛乳を飲んでいただいたり、普段から水分補給や繊維質の多い食材を提供し、調整している。 排泄の記録により、便秘の方には医師の指示により服薬等を行ない、コントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日声かけし、利用者の希望や意志を尊重している。 タイミングをみながら声かけし、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	
			(外部評価) いつでも入浴できるように準備されているが、ご本人の気が乗らないような場合は無理強いせず、日を替えたり誘い方を工夫して入浴につながるよう支援されている。利用者は2つのユニットを自由に行き来されており、お風呂の希望を「いつでもいいよ」と言われる利用者も、他ユニットでは「私、午前中は入りとうないんよ」と言われたりすることもあり、他ユニットでお風呂に入る気分になられたような時に、お風呂を借りるようなこともあるようだ。リフト浴を設置しているユニットもあり、必要に応じ、両ユニットの利用者が使用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう気をつけながら、室温や明かり、空気の乾燥の調整をしている。 日中気分よく生活できるよう、一人ひとりに合わせて休息の時間を作り、休んでいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員により服薬の準備をし、処方箋をファイルに閉じ、内容が確認できるようにしている。 また変更については、連絡ノートに記入し、職員に周知徹底している。 服薬の支援は個々に応じて行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物やドライブなど気分転換をしていただけるよう、支援している。また、2ユニット一緒にカラオケやおやつ作りなどをして楽しんでもらっている。 荷物運びや畑仕事、水やりなどできることで役割を持ててもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域行事や買い物、希望があればできるだけ出掛けれるよう支援している。 普段から外出の機会が多い。 また、家族の協力のもと、本人の希望の場所へ出かけられている。 (外部評価) 散歩コースは、畑の作物や花を眺めたり、鳥のさえずりも聞こえ、季節を感じながら散歩を楽しむことができる。利用者の日用品等、生活に必要なものを買いに車で出かけたり、毎月、会員制の映画鑑賞に出かける方やピアノ発表会に行く方もおられる。みなで外食やドライブに出かけたり、ご家族と食事や親戚の法事に行かれる方もいる。事業所の畑で、鋤を使っていきいきと作業をしてくださる男性利用者もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布を持って、支払ってもらえることがある。 小遣いを持たれることで安心感につながることもあるため、自分で小額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は事務所の電話を使い、電話をかけるお手伝いをしている。 また、家族と手紙のやりとりや返信ができるよう支援している。 年賀状を出したい人へ出せるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を玄関に飾ったり、飾り付けをしている。玄関前の花壇や裏庭に花や野菜を植えて、季節感を取り入れている。 汚れた時にきちんと掃除ができるようにしている。 玄関での出入りが多いので、チャイムは改善の必要がある。	
			(外部評価) 玄関には利用者が以前作った牛鬼の頭が展示されており、来訪者を楽しませてくれている。玄関のチャイムは、音量を小さめに調節しておられた。冬期は「こたつがほしい」と利用者からの希望もあり、テレビの前にこたつを置き、周りにソファを配置して足元があたたかく過ごせるようにされていた。建物の周囲は、デッキでつながっており、上履きで一回りできるようになっており、どの居室からも出られるようになっている。両ユニットの間は、デッキの広場スペースとなっており、暖かい日には、両ユニットの利用者が出て来られ日向ぼっこをしたり、夏には和霊祭りの花火も見られるようだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) デッキのベンチや出窓で気持ちよさそうにされていたり、リビングのテーブルで仲の良い方同士で会話している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスや本人が使いやすいテレビ・タンス・テーブル・ソファ等を持って来られ、使っている。	
			(外部評価) 居室の戸を閉めることを好まれる方もいるが、戸を開けておいても中が見えにくいよう、のれんをかけて配慮されている。仏壇・テレビ・机・いす・ソファ等、それぞれに持ち込まれており、ご家族の写真には、付箋を付けて名前と続柄が分かるようにされていた。趣味の電子ピアノを置いていたり、自分で書いた絵を飾っておられる居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 目印を付けたり、表示をしている。 手すり・スロープ等の工夫をしたり、居室に専用の洗面所がある。	